

**2013 年度  
大学のアクティブラーニング調査報告書**

**河合塾**

2014 年 11 月

## 【1】質問紙調査

### 1. 質問紙調査の概要

#### ■調査対象

調査対象は2013年度カリキュラムとした。

医・歯・薬、獣医系の6年制の学部、芸術系学部、体育系学部、医療福祉系学部等、資格取得を目的とした学部を除くほぼすべての系統（看護のみ調査対象）のうち、下記一覧の学科系統の国公立大学の2,462学科の学科長に対して質問紙を送付し、e-mail および郵便にて1,069学科から回答をいただいた（回答率43.4%）。

送付対象を学部ではなく学科としたのは、同じ学部内であっても学科によってカリキュラム編成が大きく異なる場合があるためである。また学部の中からはその学部の代表的な学科、他の大学でも多く見られる学科を抽出した。

※回答いただいた1,069学科は巻末に記載。

学部系統	学科系統
文・人文学系	日本文学系、英米文学系、外国語・コミュニケーション学系
社会・国際学系	社会学系（観光・ジャーナリズム含む）、国際関係学系
法・政治学系	法律系、政治・行政学系
経済・経営・商学系	経済学系、経営学系、商・会計学系
教育・教員養成系	教育学・教育心理学系、小等・中等教育教員養成課程（国語科、数学科）
理学系	数学系、物理系、化学系、
工学系	機械工学系、電気・電子工学系、通信・情報工学系、建築学系
農・林・水産学系	生物生産学系、応用生命学系
看護学系	看護学系
総合・環境・人間・情報学系	総合政策学系、環境科学系、人間科学系、情報メディア学系

#### ■調査時期

質問紙発送：2013年11月

質問紙回収：2013年12月～2014年3月

#### ■系統別質問紙送付、回答状況

系統	送付 学科数	回答 学科数
文・人文	384	184
社会・国際	195	85
法・政治	150	76
経済・経営・商	424	198
教育（教員養成課程）	63	21

系統	送付 学科数	回答 学科数
理	192	67
工	567	258
農・林・水産	105	39
看護	196	53
総合・環境・情報・人間	180	83
総計	2462	1069

※最下段「総計」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

回収率	43.4%
-----	-------

## 2. 質問紙調査の結果分析

### (1) 到達目標について

#### ①学部・学科の到達目標の明文化

4年間を通じて学生が獲得すべき能力を、学部・学科の到達目標として具体的に明文化しているかを聞いた。

図表 1

系統	全体			国公立大			私立大		
	学科数	明文化している	率	学科数	明文化している	率	学科数	明文化している	率
文・人文・外国語	184	145	78.8%	11	10	90.9%	173	135	78.0%
社会・国際	85	70	82.4%	7	4	57.1%	78	66	84.6%
法・政治	76	64	84.2%	11	8	72.7%	65	56	86.2%
経済・経営・商	198	145	73.2%	31	24	77.4%	167	121	72.5%
教育（教員養成課程）	21	19	90.5%	21	19	90.5%			
理	67	55	82.1%	20	13	65.0%	47	42	89.4%
工	258	223	86.4%	54	49	90.7%	204	174	85.3%
農・林・水産	39	33	84.6%	15	13	86.7%	24	20	83.3%
看護	53	40	75.5%	21	14	66.7%	32	26	81.3%
総合・環境・人間・情報	83	65	78.3%	8	6	75.0%	75	59	78.7%
全体※	1069	863	80.7%	201	162	80.6%	868	701	80.8%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

国公立大・私立大ともに、経済・経営・商学系統において、明文化している学科の比率が低い。学生その到達目標を達成できたかどうかをどのように測定しているかも聞いているが、多くの学科では、「到達目標を達成すべくカリキュラムが構築されており、単位の修得をもって目標の達成度を測る」あるいは「卒業論文の評価をもって達成度が測られる」と、直接的に達成度を測っているという回答は稀であった。

図表2は、直接的に達成度を測っている、あるいは学科の目標と各履修科目の達成目標を紐付けて可視化している例である。札幌市立大・看護では、医・歯・薬学科で行われているOSCE（客観的臨床能力試験＝臨床実習前に、その能力を備えているかを測る実技試験）の看護版を到達目標の測定として用いられている。

図表 2

<p>新潟大学では新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS：Niigata University Bachelor Assessment System）を平成 25 年度より全学部の 42 の主専攻プログラムで段階的に導入している。このシステムでは、設定された各種到達目標の達成の度合いが修得した科目の成績より導き出され、学生は自分の学習成果をレーダーチャートとして視覚的に確認することができるようになっている。（新潟大）</p>
<p>本学部ではプロフィールシートシステムという学生の成長を可視化するシステムを確立し、既に運用している。これは学部の設定する教師力（3分野10の軸）をもとに各学生による自己評価と指導教員によるコメントと面談指導、そしてふり返りを定期的に行うものである。学生の自己評価は履修した講義や体験活動の内容により、10の指標を持つレーダーチャートに現れ、その経年変化を学生と指導教員とで検討するものである。他に学部での成績をもとにした GPA 得点や 1000 時間体験活動の内容なども全て Web 上で見ることができる。（島根大・教育・初等教育開発専攻）</p>
<p>到達目標の測定としての OSCE（客観的臨床能力試験）を実施している。それぞれの学年の到達度を踏まえた課題を作成し、判断力・技術力・マナーなど実際の現場で必要とされる臨床技能の修得を、適正に評価する。看護 OSCE を行うことで、看護実践力の質を保証し、看護技術項目と卒業時の到達度の明確化、看護教育内容・教育力の向上を目指す。学生は、実施した看護実践について、模擬患者と教員からフィードバックを受ける。（札幌市立大・看護・看護）</p>
<p>学生は、半期ごとにコンピテンシーレベルの目標設定（＝能力向上の具体的な目標）を行い、その目標を達成するための行動計画（＝具体的に何に取り組むか）の策定を行っています。学生は、コンピテンシー自己評価システム（C-compass）を活用して、主体的かつ定期的（＝半期毎）に自己確認しています。（中央大・商）</p>

(2) 複数の教員が協働して実施している、課題解決を目的としたアクティブラーニング科目について

①教員が協働して実施している課題解決を目的としたアクティブラーニング科目の実施状況

各学科において、知識や技能の確認・定着ではなく、課題解決を目的としたアクティブラーニング科目の中で、複数の教員が授業を担当しており、それらの複数教員によって授業設計、運営が行われている科目が、どのように配置されているかを聞いた。

学科系統別に、各学年での配置状況をポイント化して、その傾向を見ている。

- ・1科目について履修率をポイントに換算  
 必須=6、80%以上=5、60%~80%=4、40%~60%=3、20~40%=2、20%以下=1、履修率の記載なし=1  
 半期科目は、上記ポイントの2分の1とする。
- ・複数の科目を設置している場合は、ポイントを積み上げ、上限を6点とする。
- ・系統ごとに平均ポイントを算出。

図表3

系統	全体				
	学科数	1年次平均	2年次平均	3年次平均	4年次平均
文・人文・外国語	184	0.69	0.57	0.52	0.48
社会・国際	85	0.80	0.73	0.49	0.28
法・政治	76	0.60	0.51	0.52	0.16
経済・経営・商	198	0.63	0.56	0.52	0.16
教育（教員養成課程）	21	0.52	0.64	0.67	0.33
理	67	0.72	0.68	0.62	0.57
工	258	1.02	0.91	1.40	0.78
農・林・水産	39	0.85	0.62	1.03	1.32
看護	53	0.99	0.90	1.42	1.11
総合・環境・人間・情報	83	1.17	1.31	1.01	0.57
全体	1069	0.82	0.75	0.84	0.53

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

ほとんどの学科系統・年次で、平均ポイントが1ポイントに満たない、つまり、教員が協働して実施している課題解決を目的としたアクティブラーニング科目を履修している学生は20%以下という状況である。系統による違いなどが分かりづらいため、併せて、次のような集計も行った。

- ・1科目について履修率をポイントに換算  
 必須=6、80%以上=5、60%~80%=4、40%~60%=3、20~40%=2、20%以下=1、履修率の記載なし=1  
 半期科目は、上記ポイントの2分の1とする。
- ・複数の科目を設置している場合は、ポイントを積み上げ、上限を6点とする。
- ・系統ごとに、2ポイント以上の学科数とその比率を算出。

図表 4：全体 2 ポイント以上の学科の占有率

系統	全体				
	学科数	1 年次占有率	2 年次占有率	3 年次占有率	4 年次占有率
文・人文・外国語	184	14%	9%	9%	7%
社会・国際	85	15%	12%	6%	5%
法・政治	76	13%	8%	5%	0%
経済・経営・商	198	11%	10%	9%	3%
教育（教員養成課程）	21	10%	14%	10%	5%
理	67	12%	10%	9%	6%
工	258	19%	13%	22%	9%
農・林・水産	39	10%	10%	23%	18%
看護	53	15%	13%	26%	15%
総合・環境・人間・情報	83	25%	22%	17%	7%
全体	1069	15%	12%	14%	7%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

図表 4：国公立大・私立大 2 ポイント以上の学科数

系統	国公立大					私立大				
	学科数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	学科数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
文・人文・外国語	11	0	2	1	0	173	26	14	16	12
社会・国際	7	1	2	1	1	78	12	8	4	3
法・政治	11	1	0	1	0	65	9	6	3	0
経済・経営・商	31	0	1	1	0	167	21	19	17	6
教育（教員養成課程）	21	2	3	2	1					
理	20	1	0	1	0	47	7	7	5	4
工	54	6	5	7	2	204	44	29	51	22
農・林・水産	15	3	3	2	2	24	1	1	7	5
看護	21	3	1	5	3	32	5	6	9	5
総合・環境・人間・情報	8	3	3	2	0	75	18	15	12	6
全体	201	20	21	23	9	868	145	107	126	64

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

文系学科においては、1 年次に、ある程度、教員協働による課題解決型のアクティブラーニング科目が見られるが、その後は、学年が上がるにつれ低くなる。特に社会科学系の 4 年次は極めて低い。

理系学科では、1 年次の数値が高いのは文系学科と同様だが、その後、3 年次にまた数値がポイントが上がる。研究室配属前の 3 年次に、低学年次で学修した内容を統合して課題解決にあたるようなプレ卒研や実験科目が置かれるというカリキュラム構造によるものであろう。

## ②教員が協働して実施している課題解決を目的としたアクティブラーニング科目における協働内容

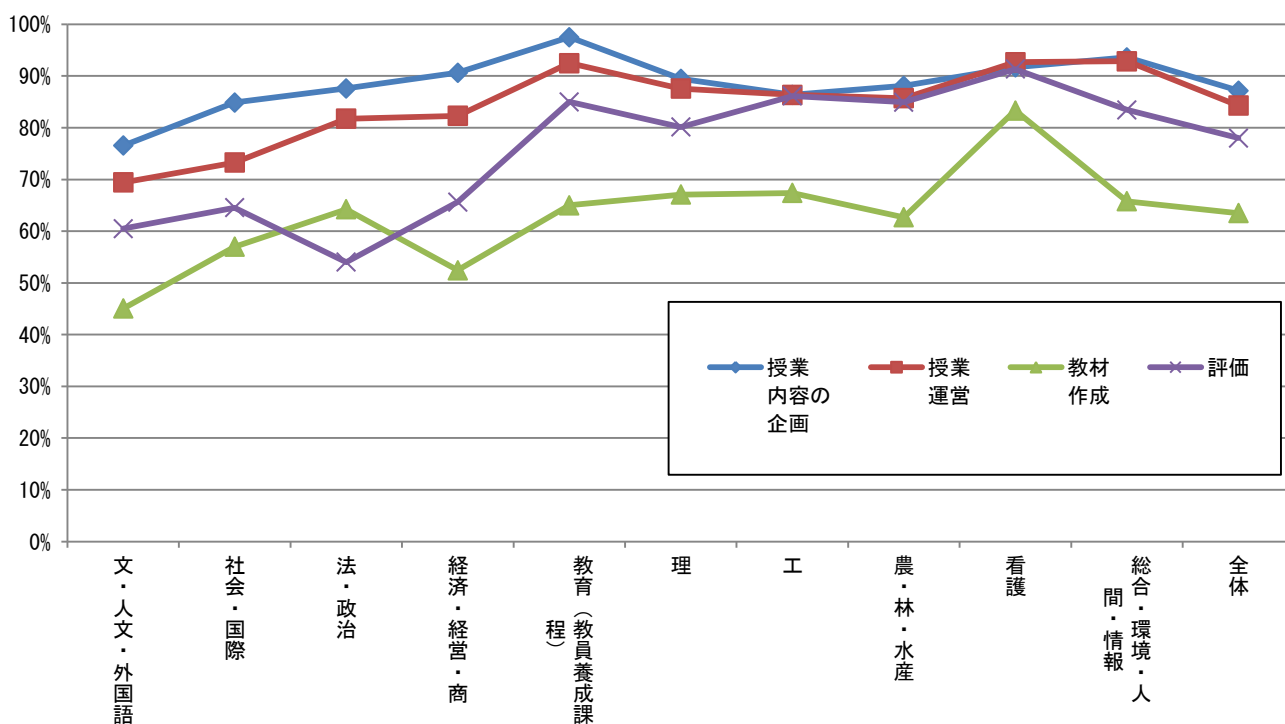
教員が協働して実施している課題解決を目的としたアクティブラーニング科目において、どのような協働が行われているかを、科目ごとに聞いた。「授業内容の企画」「授業運営」「教材作成」「評価」の4項目について、教員の協働が「有る」と回答のあった科目の割合を学科系統ごとにまとめた。

図表 5

系統	全体				
	対象科目数	授業内容の企画	授業運営	教材作成	評価
文・人文・外国語	324	77%	69%	45%	60%
社会・国際	172	85%	73%	57%	65%
法・政治	137	88%	82%	64%	54%
経済・経営・商	288	91%	82%	52%	66%
教育（教員養成課程）	40	98%	93%	65%	85%
理	161	89%	88%	67%	80%
工	975	86%	86%	67%	86%
農・林・水産	126	88%	86%	63%	85%
看護	300	92%	93%	83%	91%
総合・環境・人間・情報	266	94%	93%	66%	83%
全体	2823	87%	84%	63%	78%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

図表 6



図表 7

系統	国公立					私立				
	対象科目数	授業内容の企画	授業運営	教材作成	評価	対象科目数	授業内容の企画	授業運営	教材作成	評価
文・人文・外国語	34	100%	97%	85%	97%	290	74%	66%	40%	56%
社会・国際	22	68%	55%	36%	55%	150	87%	76%	60%	66%
法・政治	15	87%	87%	33%	80%	122	88%	81%	68%	51%
経済・経営・商	22	95%	77%	41%	45%	266	90%	83%	53%	67%
教育（教員養成課程）	40	98%	93%	65%	85%					
理	26	96%	96%	77%	100%	135	88%	86%	65%	76%
工	201	91%	92%	74%	91%	774	85%	85%	66%	85%
看護	40	93%	93%	65%	88%	86	86%	83%	62%	84%
医・歯・薬・保健	104	93%	95%	81%	97%	196	91%	91%	85%	88%
総合・環境・人間・情報	35	100%	94%	86%	86%	231	93%	93%	63%	83%
全体	547	93%	91%	71%	88%	2276	86%	83%	62%	75%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

文系学科においては「授業内容の企画」「授業運営」において協働している率が高いが、「教材作成」および「評価」においては低い。

理系学科においては「教材作成」が低い、その他の3点については協働している率は高い。



### ③教員が協働して実施している課題解決を目的としたアクティブラーニング科目における評価

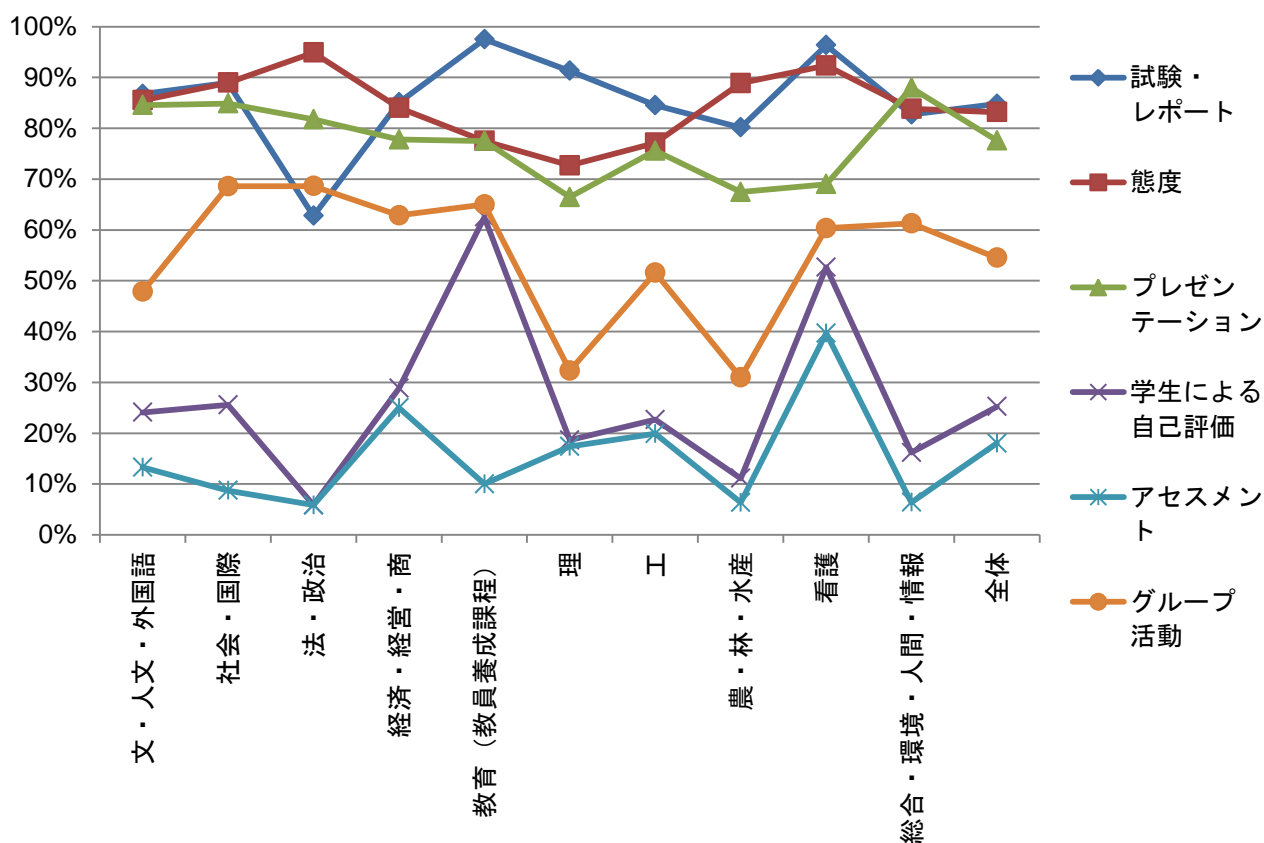
教員が協働して実施している課題解決を目的としたアクティブラーニング科目において、何を評価の対象としているかを科目ごとに聞いた。「試験・レポート」「態度」「プレゼンテーション」「学生による自己評価」「アセスメント」「グループ活動」の6項目について、「評価対象としている」と回答のあった科目の割合を、学科系統ごとにまとめた。

図表 8

系統	全体						
	対象科目数	試験・レポート	態度	プレゼンテーション	学生による自己評価	アセスメント	グループ活動
文・人文・外国語	324	87%	85%	85%	24%	13%	48%
社会・国際	172	89%	89%	85%	26%	9%	69%
法・政治	137	63%	95%	82%	6%	6%	69%
経済・経営・商	288	85%	84%	78%	29%	25%	63%
教育（教員養成課程）	40	98%	78%	78%	63%	10%	65%
理	161	91%	73%	66%	19%	17%	32%
工	975	85%	77%	76%	23%	20%	52%
農・林・水産	126	80%	89%	67%	11%	6%	31%
看護	300	96%	92%	69%	53%	40%	60%
総合・環境・人間・情報	266	83%	84%	88%	16%	6%	61%
全体	2823	85%	83%	78%	25%	18%	55%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

図表 9



「試験・レポート」「態度」「プレゼンテーション」の3項目については、概ねどの系統でも評価に組み入れている率が高い。一方で、「学生による自己評価」「アセスメント」を評価に組み入れている系統は少ない。教員養成課程においては、「教職実践演習」がおかれ、教職履修カルテの中で学習の成果に対する自己評価を記録するため、「学生による自己評価」の率が高くなっていると思われる。また、看護学系統でアセスメントの率が高いのは、前述のOSCEに準じた何らかの臨床能力の測定を行っているものであろう。

図表 10

系統	国公立						
	対象 科目数	試験・ レポート	態度	プレゼンテ ーション	学生による 自己評価	アセスメ ント	グループ 活動
文・人文・外国語	34	94%	74%	82%	9%	0%	71%
社会・国際	22	91%	59%	86%	23%	0%	45%
法・政治	15	60%	87%	67%	0%	7%	67%
経済・経営・商	22	91%	64%	68%	0%	5%	45%
教育（教員養成課程）	40	98%	78%	78%	63%	10%	65%
理	26	96%	69%	58%	27%	27%	50%
工	201	91%	75%	66%	20%	11%	44%
農・林・水産	40	78%	88%	68%	18%	8%	38%
看護	104	94%	88%	86%	60%	42%	74%
総合・環境・人間・情報	35	89%	71%	74%	31%	6%	69%
全体	547	73%	78%	73%	31%	15%	56%

系統	私立						
	対象 科目数	試験・ レポート	態度	プレゼンテ ーション	学生による 自己評価	アセスメ ント	グループ 活動
文・人文・外国語	290	86%	87%	85%	26%	15%	45%
社会・国際	150	89%	93%	85%	26%	10%	72%
法・政治	122	63%	96%	84%	7%	6%	69%
経済・経営・商	266	85%	86%	79%	31%	27%	64%
理	135	90%	73%	68%	17%	16%	29%
工	774	83%	78%	78%	23%	22%	54%
農・林・水産	86	81%	90%	67%	8%	6%	28%
看護	196	97%	94%	60%	49%	38%	53%
総合・環境・人間・情報	231	82%	86%	90%	14%	6%	60%
全体	2276	79%	85%	79%	24%	19%	54%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

④教員が協働して実施している課題解決を目的としたアクティブラーニング科目における SA・TA 活用

教員が協働して実施している課題解決を目的としたアクティブラーニング科目において、事務的な作業だけではなく、受講生に対して直接アドバイスを行うなどファシリテータとして授業を補佐する SA あるいは TA が、「有」と回答のあった科目の割合を、学科系統ごとにまとめた。

図表 11

系統	全体				
	対象科目数	1年次	2年次	3年次	4年次
文・人文・外国語	324	21%	27%	10%	6%
社会・国際	172	27%	13%	28%	0%
法・政治	137	42%	13%	23%	0%
経済・経営・商	288	27%	18%	9%	0%
教育（教員養成課程）	40	9%	0%	8%	0%
理	161	60%	69%	69%	13%
工	975	49%	71%	64%	32%
農・林・水産	126	24%	68%	50%	24%
看護	300	16%	23%	27%	14%
総合・環境・人間・情報	266	47%	49%	45%	36%
全体	2823	13%	11%	13%	3%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

系統	国公立					私立				
	対象科目数	1年次	2年次	3年次	4年次	対象科目数	1年次	2年次	3年次	4年次
文・人文・外国語	34	0%	17%	0%	0%	290	22%	30%	11%	6%
社会・国際	22	0%	0%	60%	0%	150	29%	16%	23%	0%
法・政治	15	67%		9%		122	40%	13%	27%	0%
経済・経営・商	22	0%	0%	0%		266	30%	19%	10%	0%
理	26	89%	80%	100%	0%	135	53%	68%	63%	16%
工	201	60%	75%	85%	19%	774	47%	70%	59%	34%
農・林・水産	40	19%	67%	50%	20%	86	27%	69%	50%	26%
看護	104	13%	22%	44%	16%	196	17%	23%	17%	13%
総合・環境・人間・情報	35	20%	45%	38%	0%	231	52%	50%	46%	38%
全体	547	18%	11%	18%	2%	2276	12%	12%	12%	3%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

文系学科では、4年間を通じて、SA・TA がファシリテータとして活用されている比率は低いが、国公立大・私立大とも法・政治学系統の1年次でやや高くなっている。一方、理系学科は、4年次には研究室での活動が中心となるため SA・TA が活用される比率は低くなるものの、1～3年次は概ね 50%以上の科目で活用されている。ただし、農・林・水産学系統の1年次は、やや低い。

### (3) 卒業論文・卒業研究

#### ① 系統別 卒業論文・卒業研究履修率

- ・学部系統別に卒業論文、卒業研究の取り扱いを比較する。
- ・卒業論文、卒業研究に取り組む学生の割合をポイントに換算。  
 必須=6、80%以上=5、60~80%=4、40~60%=3、20~40%=2、20%以下=1、  
 卒業論文・卒業研究はあるが取り組む学生の割り合いの記載なし=1、卒業論文はない=0
- ・系統ごとに平均ポイントを算出。

図表 12

系統	全体		国公立		私立	
	対象 学科数	平均履修率 ポイント	対象 学科数	平均履修率 ポイント	対象 学科数	平均履修率 ポイント
文・人文・外国語	184	5.1	11	6.0	173	5.0
社会・国際	85	5.2	7	5.0	78	5.2
法・政治	76	2.3	11	2.8	65	2.2
経済・経営・商	198	3.6	31	4.0	167	3.6
教育(教員養成課程)	21	5.7	21	5.7	0	—
理	67	5.7	20	5.7	47	5.7
工	258	5.9	54	6.0	204	5.9
農・林・水産	39	5.6	15	6.0	24	5.3
医・歯・薬・保健	53	5.4	21	5.9	32	5.0
総合・環境・人間・情報	83	5.3	8	6.0	75	5.2
全体	1069	4.9	201	5.4	868	4.8

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

卒業論文・卒業研究の履修率は学系別では法・政治学系が全体平均で他の学系よりも著しく低く 2.3 ポイントを示した。それ以外では、総じて理系が高く、文系では文・人文・外国語系、社会・国際系が高い。

人数も多い経済・経営・商学系が法・政治学系を除く他の学系よりも明らかに低く、私立ではより顕著である。この学系は私立においては定員数の多い学部学科が多く、大学の経営的な要となっている場合が多いが、卒業論文までしっかり書かせて送り出す比率は相対的に低いという結果が如実に示されている。

② 卒業論文・卒業研究はありますか？

図表 13

系統	全体			
	対象 学科数	ある	ない	無回答
文・人文・外国語	184	99%	1%	0%
社会・国際	85	96%	1%	2%
法・政治	76	71%	29%	0%
経済・経営・商	198	89%	9%	3%
教育(教員養成課程)	21	95%	0%	5%
理	67	97%	1%	1%
工	258	99%	1%	0%
農・林・水産	39	100%	0%	0%
医・歯・薬・保健	53	94%	6%	0%
総合・環境・人間・情報	83	96%	4%	0%
全体	1069	94%	5%	1%

系統	国公立				私立			
	対象 学科数	ある	ない	無回答	対象 学科数	ある	ない	無回答
文・人文・外国語	11	100%	0%	0%	173	99%	1%	0%
社会・国際	7	86%	0%	14%	78	97%	1%	1%
法・政治	11	82%	18%	0%	65	69%	31%	0%
経済・経営・商	31	77%	16%	6%	167	91%	7%	2%
教育(教員養成課程)	21	95%	0%	5%	0	0%	0%	0%
理	20	95%	5%	0%	47	98%	0%	2%
工	54	100%	0%	0%	204	99%	1%	0%
農・林・水産	15	100%	0%	0%	24	100%	0%	0%
医・歯・薬・保健	21	0%	0%	0%	32	91%	9%	0%
総合・環境・人間・情報	8	100%	0%	0%	75	96%	4%	0%
全体	201	94%	4%	2%	868	94%	5%	1%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

③ 卒業論文・卒業研究がある場合、それは全員必須（卒業要件）とされていますか？

図表 14

系統	全体			
	対象 学科数	必須	選択	無回答
文・人文・外国語	184	77%	22%	1%
社会・国際	85	71%	26%	4%
法・政治	76	20%	53%	28%
経済・経営・商	198	30%	60%	11%
教育(教員養成課程)	21	95%	0%	5%
理	67	90%	7%	3%
工	258	98%	2%	0%
農・林・水産	39	87%	13%	0%
医・歯・薬・保健	53	83%	11%	6%
総合・環境・人間・情報	83	80%	17%	4%
全体	1069	71%	24%	5%

系統	国公立				私立			
	対象 学科数	必須	選択	無回答	対象 学科数	必須	選択	無回答
文・人文・外国語	11	100%	0%	0%	173	75%	24%	1%
社会・国際	7	71%	14%	14%	78	71%	27%	3%
法・政治	11	36%	45%	18%	65	17%	54%	29%
経済・経営・商	31	42%	35%	23%	167	28%	64%	8%
教育(教員養成課程)	21	95%	0%	5%	0	0%	0%	0%
理	20	95%	0%	5%	47	87%	11%	2%
工	54	100%	0%	0%	204	98%	2%	0%
農・林・水産	15	100%	0%	0%	24	79%	21%	0%
医・歯・薬・保健	21	90%	10%	0%	32	78%	13%	9%
総合・環境・人間・情報	8	100%	0%	0%	75	77%	19%	4%
全体	201	85%	9%	6%	868	68%	27%	5%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

④ 卒業論文・卒業研究がある場合、その審査は誰が行いますか？

図表 15

系統	全体			
	対象 学科数	複数	単独	無回答
文・人文・外国語	184	58%	41%	1%
社会・国際	85	31%	67%	2%
法・政治	76	7%	63%	30%
経済・経営・商	198	14%	76%	10%
教育(教員養成課程)	21	71%	24%	5%
理	67	49%	46%	4%
工	258	83%	17%	0%
農・林・水産	39	59%	41%	0%
医・歯・薬・保健	53	25%	68%	8%
総合・環境・人間・情報	83	60%	36%	4%
全体	1069	48%	46%	5%

系統	国公立				私立			
	対象 学科数	複数	単独	無回答	対象 学科数	複数	単独	無回答
文・人文・外国語	11	73%	27%	0%	173	57%	42%	1%
社会・国際	7	43%	57%	0%	78	29%	68%	3%
法・政治	11	36%	45%	18%	65	2%	66%	32%
経済・経営・商	31	13%	68%	19%	167	14%	78%	8%
教育(教員養成課程)	21	71%	24%	5%	0	0%	0%	0%
理	20	45%	50%	5%	47	51%	45%	4%
工	54	87%	13%	0%	204	81%	19%	0%
農・林・水産	15	67%	33%	0%	24	54%	46%	0%
医・歯・薬・保健	21	24%	76%	0%	32	25%	63%	13%
総合・環境・人間・情報	8	63%	38%	0%	75	60%	36%	4%
全体	201	56%	39%	5%	868	46%	48%	6%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

⑤ 卒業論文・卒業研究がある場合、審査（評価）において、明文化された審査（評価）基準チェックシートはありますか？

図表 16

系統	全体			
	対象 学科数	ある	ない	無回答
文・人文・外国語	184	23%	73%	3%
社会・国際	85	16%	81%	2%
法・政治	76	8%	62%	30%
経済・経営・商	198	14%	73%	13%
教育(教員養成課程)	21	14%	81%	5%
理	67	16%	79%	4%
工	258	49%	50%	1%
農・林・水産	39	15%	82%	3%
医・歯・薬・保健	53	49%	40%	11%
総合・環境・人間・情報	83	30%	63%	7%
全体	1069	27%	66%	7%

系統	国公立				私立			
	対象 学科数	ある	ない	無回答	対象 学科数	ある	ない	無回答
文・人文・外国語	11	27%	64%	9%	173	23%	74%	3%
社会・国際	7	14%	86%	0%	78	17%	81%	3%
法・政治	11	18%	64%	18%	65	6%	62%	32%
経済・経営・商	31	10%	71%	19%	167	15%	74%	11%
教育(教員養成課程)	21	14%	81%	5%	0	0%	0%	0%
理	20	5%	90%	5%	47	21%	74%	4%
工	54	59%	39%	2%	204	47%	52%	1%
農・林・水産	15	20%	80%	0%	24	13%	83%	4%
医・歯・薬・保健	21	43%	48%	10%	32	53%	34%	13%
総合・環境・人間・情報	8	13%	63%	25%	75	32%	63%	5%
全体	201	29%	63%	8%	868	27%	66%	7%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む



⑥ 卒業論文・卒業研究がある場合、その発表はどのように行われますか？（複数回答可）

図表 17

系統	全体						
	対象 学科数	全員 口頭発表	一部 口頭発表	全員 ポスター	一部 ポスター	ゼミ裁量	発表なし
文・人文・外国語	184	28%	26%	4%	7%	23%	24%
社会・国際	85	22%	35%	2%	11%	33%	15%
法・政治	76	4%	14%	0%	4%	21%	33%
経済・経営・商	198	11%	26%	2%	1%	36%	28%
教育(教員養成課程)	21	76%	5%	0%	0%	14%	0%
理	67	64%	15%	19%	6%	12%	4%
工	258	95%	3%	12%	5%	2%	0%
農・林・水産	39	79%	13%	10%	5%	8%	0%
医・歯・薬・保健	53	40%	23%	15%	13%	23%	8%
総合・環境・人間・情報	83	55%	19%	7%	14%	20%	4%
全体	1069	47%	18%	7%	6%	19%	14%

系統	国公立						
	対象 学科数	全員 口頭発表	一部 口頭発表	全員 ポスター	一部 ポスター	ゼミ裁量	発表なし
文・人文・外国語	11	27%	36%	0%	9%	18%	18%
社会・国際	7	43%	29%	0%	0%	14%	29%
法・政治	11	27%	18%	0%	9%	27%	18%
経済・経営・商	31	10%	19%	3%	0%	23%	32%
教育(教員養成課程)	21	76%	5%	0%	0%	14%	0%
理	20	60%	5%	5%	10%	5%	15%
工	54	94%	2%	15%	2%	0%	0%
農・林・水産	15	93%	7%	0%	7%	0%	0%
医・歯・薬・保健	21	57%	29%	29%	19%	19%	0%
総合・環境・人間・情報	8	75%	13%	13%	25%	0%	0%
全体	201	62%	12%	8%	6%	10%	9%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

系統	私立						
	対象 学科数	全員 口頭発表	一部 口頭発表	全員 ポスター	一部 ポスター	ゼミ裁量	発表なし
文・人文・外国語	173	28%	25%	5%	7%	24%	25%
社会・国際	78	21%	36%	3%	12%	35%	14%
法・政治	65	0%	14%	0%	3%	20%	35%
経済・経営・商	167	11%	28%	1%	1%	38%	27%
教育(教員養成課程)	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%
理	47	66%	19%	26%	4%	15%	0%
工	204	95%	4%	11%	6%	2%	0%
農・林・水産	24	71%	17%	17%	4%	13%	0%
医・歯・薬・保健	32	28%	19%	6%	9%	25%	13%
総合・環境・人間・情報	75	53%	20%	7%	13%	23%	4%
全体	868	43%	20%	7%	6%	21%	15%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

⑦ 卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない場合、学科1学年の学生数を母体として、卒業論文・卒業研究に取り組む学生の割合はおよそどのくらいですか？

図表 18

系統	全体					
	対象 学科数	80%～	60～ 80%	40～ 60%	20～ 40%	～20%
文・人文・外国語	184	2%	1%	4%	4%	11%
社会・国際	85	7%	9%	8%	2%	1%
法・政治	76	5%	4%	9%	9%	18%
経済・経営・商	198	12%	16%	11%	13%	9%
教育(教員養成課程)	21	0%	0%	0%	0%	0%
理	67	6%	3%	0%	0%	0%
工	258	3%	0%	1%	0%	0%
農・林・水産	39	5%	0%	0%	3%	0%
医・歯・薬・保健	53	6%	2%	2%	2%	2%
総合・環境・人間・情報	83	4%	1%	4%	6%	2%
全体	1069	5%	5%	5%	5%	5%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

系統	国公立					
	対象 学科数	80%～	60～ 80%	40～ 60%	20～ 40%	～20%
文・人文・外国語	11	0%	0%	0%	0%	0%
社会・国際	7	14%	0%	0%	0%	0%
法・政治	11	0%	0%	0%	18%	27%
経済・経営・商	31	26%	6%	3%	3%	3%
教育(教員養成課程)	21	0%	0%	0%	0%	0%
理	20	0%	0%	0%	0%	0%
工	54	2%	0%	0%	0%	0%
農・林・水産	15	0%	0%	0%	0%	0%
医・歯・薬・保健	21	10%	0%	0%	0%	0%
総合・環境・人間・情報	8	0%	0%	0%	0%	0%
全体	201	6%	1%	0%	1%	2%

系統	私立					
	対象 学科数	80%～	60～ 80%	40～ 60%	20～ 40%	～20%
文・人文・外国語	173	2%	1%	4%	4%	12%
社会・国際	78	6%	10%	9%	3%	1%
法・政治	65	6%	5%	11%	8%	17%
経済・経営・商	167	9%	18%	12%	14%	10%
教育(教員養成課程)	0	0%	0%	0%	0%	0%
理	47	9%	4%	0%	0%	0%
工	204	3%	0%	1%	0%	0%
農・林・水産	24	8%	0%	0%	4%	0%
医・歯・薬・保健	32	3%	3%	3%	3%	3%
総合・環境・人間・情報	75	4%	1%	4%	7%	3%
全体	868	5%	5%	6%	5%	6%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

⑧ 卒業論文・卒業研究が全員必須とされていない場合、あるいは、卒業論文・卒業研究がない場合、他に学部・学科での学習の集大成となるような課題を課していますか？

図表 19

系統	全体				
	対象 学科数	課して いない	必須で 課す	選択で 課す	その他
文・人文・外国語	184	3%	3%	10%	1%
社会・国際	85	6%	6%	7%	2%
法・政治	76	3%	3%	26%	1%
経済・経営・商	198	3%	3%	20%	2%
教育(教員養成課程)	21	0%	0%	0%	0%
理	67	1%	1%	0%	3%
工	258	2%	2%	0%	0%
農・林・水産	39	3%	3%	0%	0%
医・歯・薬・保健	53	2%	2%	0%	8%
総合・環境・人間・情報	83	8%	8%	5%	1%
全体	1069	3%	3%	8%	2%

系統	国公立				
	対象 学科数	課して いない	必須で 課す	選択で 課す	その他
文・人文・外国語	11	0%	0%	0%	0%
社会・国際	7	14%	0%	0%	0%
法・政治	11	45%	0%	18%	0%
経済・経営・商	31	32%	0%	19%	0%
教育(教員養成課程)	21	0%	0%	0%	0%
理	20	5%	0%	0%	0%
工	54	0%	0%	0%	0%
農・林・水産	15	0%	0%	0%	0%
医・歯・薬・保健	21	5%	0%	0%	5%
総合・環境・人間・情報	8	0%	0%	0%	0%
全体	201	9%	0%	4%	0%

系統	私立				
	対象 学科数	課して いない	必須で 課す	選択で 課す	その他
文・人文・外国語	173	10%	3%	10%	1%
社会・国際	78	13%	6%	8%	3%
法・政治	65	48%	3%	28%	2%
経済・経営・商	167	43%	3%	20%	2%
教育(教員養成課程)	0	0%	0%	0%	0%
理	47	4%	2%	0%	4%
工	204	0%	2%	0%	0%
農・林・水産	24	17%	4%	0%	0%
医・歯・薬・保健	32	9%	3%	0%	9%
総合・環境・人間・情報	75	7%	9%	5%	1%
全体	868	17%	4%	9%	2%

※最下段「全体」には、調査対象外の学科系統で、回答のあった学科も含む

(4) リーダーシップの育成について

①教育目標に「リーダーシップ」を含む科目の開講状況

科目名または教育目標に「リーダーシップ」を含む科目を開講しているかを聞いた。系統ごとに「開講している」と答えた学科の数とその比率をまとめた。

図表 20

系統	全体			国公立			私立		
	対象 学科数	開講し ている	実施率	対象 学科数	開講し ている	実施率	対象 学科数	開講し ている	実施率
文・人文・外国語	184	19	10%	11	1	9%	173	18	10%
社会・国際	85	11	13%	7	0	0%	78	11	14%
法・政治	76	6	8%	11	0	0%	65	6	9%
経済・経営・商	198	46	23%	31	6	19%	167	40	24%
教育（教員養成課程）	21	1	5%	21	1	5%			
理	67	3	4%	20	0	0%	47	3	6%
工	258	22	9%	54	4	7%	204	18	9%
農・林・水産	39	3	8%	15	1	7%	24	2	8%
看護	53	18	34%	21	7	33%	32	11	34%
総合・環境・人間・情報	83	10	12%	8	0	0%	75	10	13%
全体	1069	140	13%	201	21	10%	868	119	14%

経済・経営・商学系統において開講している学科が多いのは、特に経営学系統の組織マネジメント関連科目の中でリーダーシップを理論として学ぶ科目が設置されているためである。また、看護学系統では「看護管理学」において組織論や目標管理、動機づけといったことを学ぶため、リーダーシップが含まれる。

マネジメント理論としてリーダーシップを学ぶケースが多く、ジェネリックスキルとしてリーダーシップを身に付けることを目標とした例は稀である。図表 21 はリーダーシップを身に付けることを目標とした授業の一例である。

図表 21

大学（学部・学科）	年次	学期	科目名	授業内容	必須・選択
新潟大 （工・機械システム）	4	前期	卒業研修	1年次開講の工学リテラシー入門の講義で1年生のグループの問題解決のプロセスにリーダーとして加わり、1年生を成功体験に導く中で、リーダーシップと指導力を身につける。	必修
名古屋市立大 （経済・会計ファイナンス）			リーダーシップとネゴシエーションⅡ	対人影響力、問題解決能力、コーチング能力などを学ぶ。	必修
杏林大 （外国語・観光交流文化）	1	前期	ファシリテーション論	円滑な他者とのコミュニケーション能力とチーム活動の役割と方法を理解する。	必修
藤田保健衛生大 （医療科学・看護）	4	前期	統合実習	グループに分かれて病棟で実習する。看護チームの中でリーダーシップのあり方を学ぶことを授業内容に含む。	必修